

VISION

— 視線の先に — Vol.26

「オールやすぎ」で 次の世代につなげる 安来市づくり



島根県東部 鳥取県境に位置する安来市

広大な耕地 豊かな自然
歴史・文化・伝統が息づく

「人が集い未来を拓く^{ひろ} ものづくりと文化のまち」

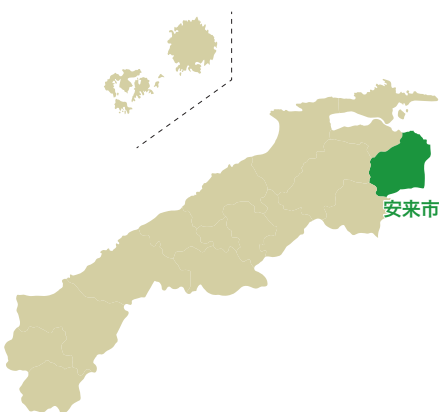
そんな安来市を訪ね

田中市長の視線の先にある

「VISION」について伺いました

安来市長

た なか たけ お
田 中 武 夫



面 積：420.93km²
人 口：37,512人
国保被保険者数：7,489人
(令和3年3月末時点)



「オールやすぎ」

国保連合会 竹中事務局長（以下、竹中）

田中市長は、昨年10月に就任されました。約半年が経過しましたが、市政に対する思いなどお聞かせいただけますか。

田中 武夫 安来市長（以下、田中市長）

私が最優先で取り組むべきは、財政の健全化だと考えております。

市長就任後、本市職員をはじめ、地域でさまざまな年代の方と対話をする機会を積極的に設けてきました。市民の皆さまの意見を伺うことはもちろんですが、本市の現状を知ってもらう必要があると思ったからです。次の世代につなげるためにはどうすれば良いか、現状把握と課題の整理に努めながら、必要な改革を進めていかなければなりません。行政だけでなく、市民の皆さまと一緒に、地域全体「オールやすぎ」で取り組んでまいります。

本市は合併から16年が経過し、若い方を中心に、合併前の3市町（旧安来市、広瀬町、伯太町）の区別なく「安来市民」としての意識も醸成されています。しかし、全体を見渡すと、公共施設等を中心に機能が重複しているところもあります。一つの施設がコミュニティの核となつてまちづくりを展開してきたことも事実ですが、施設等の管理には費用もかかりますので、これまでの歴史を尊重、継承しつつ、役割や必要性を十分に精査する必要もあると考えております。「ひとつのまち」としてのあり方を考え、まちづくりを進めていかなければなりません。

竹中 「オールやすぎ」ということは。田中市長はさまざまな場面で使っておられますね。市政に対する姿勢、思いを強く感じるところです。新型コロナウイルス感染拡大の影響に対する経済支援として配付された商品券も「オールやすぎ商品券」でしたね。

田中市長 私がネーミングしたわけではありません

せんが、いつも口にしていきますので、職員がくんでくれたのだと思います。

この商品券は、新型コロナウイルス感染症感染拡大により影響を受けた事業者や市民生活を支援し、地域経済の活性化を図る目的で配付しました。これまでも、商品券の配付を行ったことがありますが、大型店舗等での使用率が高く、市内事業者への還元が少ないことが課題でした。そこで今回は、地域応援券と共通券に分け、応援券は市内に本店機能を有する指定事業者で、共通券はすべての指定事業者で使用いただけるものとなりました。本市の経済が、少しでも盛り上がり上げればと考えております。

次世代につなげるために

竹中 広報誌に、市長と商工会青年部の方等との座談会が紹介されていましたね。市職員と市内企業の若手同士の意見交換会なども、市長の発案で開催されているとお聞きしております。若い方を巻き込む姿勢がとても面白いと思つたところです。

田中市長 私は、民間でさまざまな仕事に携わってきました。その経験から、ある程度民間の発想も分かるつもりです。また、長年、市議会議員として多くの方と接し、勉強もさせていただきました。若者から話を伺うと、立派な意見があれば、検討の余地が感じられるものもあります。しかし、彼らの大胆な発想は、多くのチャンスを秘めています。現実を踏まえながら

前向きに捉え、一緒に頑張っていきたいと思っております。

竹中 若い職員も、市長さんから声をかけてもらえるので、よろこんでいらつしやるでしょうね。

田中市長 よろこんでいるかどうかは分かりませんが（笑）。ただ、私が描く「次世代につなぐ」とは、孫の世代、その次の世代にまでつなぐということです。孫世代が大きくなる頃市政の中心を担うのは、今30代くらいの若者たちです。

職員にもよく言いますが、「今あるものからスタートする」という意識が必要です。課題もありますが、未来に向かって進んでいかなければなりません。若い頃はいろいろな発想があっても、徐々に型にはまり先細ってしまうことがあります。「前はこうやっていた」とか「上司からの指示」ということもよく聞きますが、今までのやり方ではこれ以上発展しないこともあります。整理するところは整理しつつ、積極的に進めていかなければなりません。

今でも、職員は十分頑張ってくれていると実感しております。引き続き、職員の新たな発想、提案に期待しています。

IT City Yasugi

竹中 貴市のまちづくりで、新しい取り組みなどはございますか。

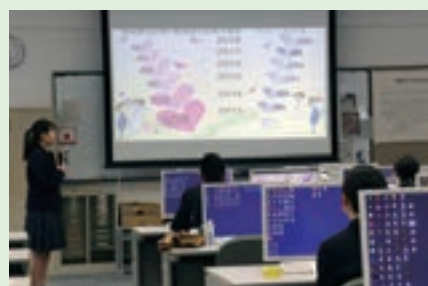
田中市長 これから一つの柱と捉えているのは、ICTの活用です。「IT City Yasugi」という構想を打ち出しています。

本市には、情報教育の先進校で、全国の公立高校で唯一のマルチメディア科を有する県立情報科学高等学校があります。

昨年度より3年間、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」指定校に選ばれました。「地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成」を掲げ、全市を挙げて、産業的にも、農業、工業、観光業、また医療分野等も巻き込んで、学生とともに、デジタルテクノロジーを活用した新しい価値を求め、企画、検討を進めているところです。

その他、小学生から高校生まで全ての子どもたちを対象に、IT団体と連携したプログラミング事業等も展開しています。高等教育をはじめ、ITに関する充実した教育環境をまちづくりにも生かし、今後一層進化するデジタル社会に対応できる人材を、地域の中で育てていきます。きつと、地元愛を持った子どもたちが育つてくれるものと信じています。

これまでは製造業中心でしたが、ITに強い人材が本市にたくさんいるとなれば、関連企業も目をつけてくれると思います。私も、時代に合った業種、事業形態を本市に呼び込み、地域



地域との連携・協働による実践的な学習
(情報科学高等学校の生徒たち)

で育てた子どもたちが活躍できる場を確保していきたいと思います。

竹中 農業分野においても、ICTを活用されていると伺いました。

田中市長 農業は本市の基幹産業の一つです。農地保全、圃場整備を進める一方、担い手不足、後継者不足等の課題もあります。そこで今、「スマート農業」の導入を進めております。省力化による担い手不足の補完や、高品質生産等への期待とともに、農業への魅力が高まり、若者の参入を促すことができるのではないかと考えております。

本市では、特産のイチゴ農園をはじめ、就農に係る農業研修の受け入れに積極的に取り組んでおります。内容も、県下で最も充実しているのではないのでしょうか。また、移住、定住してもらうためには、仕事と住居の両方が必要です。就農と移住を組み合わせたプラン、25年の居住等を条件に本市が住居を提供するといったパッケージプランも考案しました。多くの方に活用いただいております。

ITの活用で、教育や産業だけでなく、地域のあらゆる分野に好循環が生まれることを期待しています。



有機野菜を栽培
—安来の農園で就農はいかがですか—

健康やすぎ21

将来を見据えた

医療提供体制の構築を

竹中 続いて、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください。

田中市長 本市では、平成28年3月に「健康やすぎ21」を策定しました。この計画は、向こう10年間にわたる健康づくりの行動計画で、「元気でいきいきと安心して暮らせるまちづくり」を基本理念に、健康寿命の延伸を目指しています。昨年度は中間評価を行いました。目標としている65歳の平均自立期間は男女ともに伸びており、本県全体と比較しても良い結果となっています。

今後、市民の皆さま自らが健康づくりに取り組むとともに、行政と学校、企業等関係機関が連携し、生涯を通じた健康づくりを支援し、住民主体の地域活動の推進を図っていきます。

竹中 健康に暮らせるまちを目指すための体制についてはいかがですか。

田中市長 「健康やすぎ21」を体系的、総合的に推進していくため、市内28の関係機関や団体、



健診受診率向上の取り組みについてグループワークを実施（安来市健康推進会議（地区保健部会））

交流センター単位にある24の地区健康推進会議で構成された安来市健康推進会議を推進母体とし、生涯を通じた市民の健康づくりを支援しています。また、働き盛り世代の健康づくり推進のため、産業保健部会と地区保健部会を設け、職域と地域が連携した活動に取り組んでいるところでは。

一方、喫緊の課題と言えるのが、安来市立病院の経営改革です。今後も人口減少と高齢化が進み、本市の医療需要は減少していく見通しです。その中で、安来圏域全体の医療提供体制のあり方、市立病院の担う役割等を十分に検討する必要があります。

さまざまな意見を聞きながら、近隣医療圏、民間医療機関等との連携を図り、将来を見据えて改革の方向性を打ち出していかなければならないと考えております。

ICTの活用でフレイル予防

竹中 力を入れておられる取り組みや特色ある取り組みについてお聞かせください。

田中市長 本市では長年、フレイル予防、介護予防事業に力を入れてきましたが、昨年度から、ICTを活用した取り組みを始めたところです。

平成18年度から、住民の主体的な運営による「ミニデイサービス」や「ミニサロン」活動を展開してきました。しかし、内容のバラツキや専門職の関与が十分とは言えず、平成30年度に、地域包括支援センターの保健師等が支援する

フレイル・介護予防事業「こけなからだ体操」を始めました。そこへ、民間企業が開発したフレイル早期発見システム「ASTERII」を導入したところです。ICTの活用で、高齢者の運動面だけでなく、栄養・口腔・心の健康といった心身の状態も評価することができ、フレイルの早期発見と、目標を持った介護予防の取り組みや生活改善が期待できます。

今後も、地域の皆さまが安心して参加できる健康づくり・介護予防活動を充実させ、誰もが住み慣れた地域で、認知症になっても暮らしていけるような支援体制を構築するとともに、地域で総合的に支えるような取り組みも推進していきたいと思っております。

また、特定健康診査、がん検診などの各種健診（検診）事業については、多くの皆さまに受診いただいております。

地区健康推進会議でも、各地区の実態を踏まえた取り組みを検討し、受診勧奨にもご協力をいただいているところです。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながらの実施となりましたが、国保連合会のご協力の下実施した「AIを活用した特定健診の受診率向上支援事業」の効果もかなり表れたようです。



健康講演会での“座りヨガ”（十神地区健康推進会議）

今までのやり方だけでは進まないこともあり
ます。ICTの活用やAI導入など、視点を
変え、新しい取り組みも行っていきたいと思っ
ております。

ウォーキングでスマートに

お弁当は毎日アスパラで彩ります

竹中 田中市長ご自身の健康法や趣味などござ
いましたら、お聞かせください。

田中市長 市長に就任後、かなり運動不足に
なっていましたので、ウォーキングを始め
たところです。今朝も1時間15分ほど歩きまし
た。雨が降ると億劫になるのですが、スマートに
ならないといけません(笑)。家の近くの「白鳥
ロード」を、毎朝頑張つて歩いていきます。毎年
11月下旬になると、白鳥が飛来してきます。
3月下旬頃まで滞在しており、朝でも見物する
人でにぎやかです。

あと、楽しんでやっているのは農業です。
もともと農家の長男ですし、自分の食べる分



田中市長の日課は「白鳥ロード」での
ウォーキング

だけでもと思い、野菜づくりなどにいそしんで
います。今はアスパラが旬ですよ。毎朝採っ
て、お弁当に入れています。

「トップセールス」で魅力発信

竹中 最後に、安来市のPRなどお願いします。

田中市長 本市は、日本有数の郷土民謡「安来節」
発祥の地です。「どじょう掬い踊り」を中心に、
全国に向けてPRしていきたいと思っております。

また、米誌の日本庭園ランキングで18年連続
日本一に選ばれている足立美術館を有していま
す。現在は、新型コロナウイルスの影響でイン
バウンドが見込めない状況ではありますが、
収束後には、国内外問わず多くの方にお越し
いただき、所蔵される横山大観の名品とともに、
四季折々、借景と庭園との美しい調和を楽し
んでいただければと思います。私個人的には、
足立美術館から
清水寺の散策と
人気の精進料理を
いただくプランが
おすすめです。
寺では座禅体験も
できますので、ぜひ
まわっていただい
ればと思います。



特産の
いちご



どじょう掬い踊り
一掛け声は「アラ、エッサッサ～」



春の清水寺 (桜も楽しめます)

今新たに、「鉄の道文化圏」と称したまち歩き
観光ルートを、雲南市、奥出雲町との共同で開発
しています。出雲の地は「たたら製鉄」で繁栄
しました。安来節にも謡われていますが、生産
された鉄などが、「安来港」から全国各地に運び
出されていた歴史があります。たたら歴史、
文化、産業的価値を後世に伝えられるとともに、この
地域を新たな観光地として盛り上げていければ
と考えております。

これからも私自身が、本市の観光資源、
特産品をはじめ、「まち」全体の魅力を「トップ
セールス」で積極的に発信し、交流人口、関係
人口を拡大し、企業誘致などにも取り組んで
いきたいと思っております。

「次世代につなげる安来市づくり」のため、
経済の活性化、地域振興に「オールやすぎ」で
進んでいきます。